

漁況予報 いわし

第158号

2010年3～4月漁期
(2010年3月15日発行)

＝ 予 報 ＝

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、1月が103トンと前年（1トン）および前年（9トン）を大幅に上回り、つづく2月は32トン（速報値）と大漁だった前年（356トン）および前年（87トン）を下回りました。

魚体は、1月上旬には中羽～大羽マイワシ（未測定）が入網しましたが、1月下旬以降は12～13cmのヒラゴ～小羽マイワシ（2009年級・1歳魚）中心となりました。

佐島地区のまき網は12月にひきつづき、1月以降も相模湾内および東京湾口でまとまった漁獲がありましたが、2月中旬以降は徐々に漁模様が低下してきています。

昨年11月から大漁の続いた大羽マイワシは、資源豊度の高い2008年級群（2歳魚）が主体と推定されますが、本県沿岸ではだんだんと漁獲が少なくなりつつあります。今後は小羽～中羽サイズに成長している2009年級群（1歳魚）が漁獲主体となるでしょう。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、1月が332トンと前年（227トン）および前年（127トン）を大きく上回り、つづく2月は268トン（速報値）と大漁だった前年（579トン）を下回ったものの前年（213トン）並みの漁獲量でした。

魚体は、体長9～13cmの小型成魚および大型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしての漁獲は継続したものの、好漁の続いたマイワシに漁獲努力が向けられたこともあり低調に推移しました。

【しらす】

当センターでは毎年、しらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、禁漁期間中（1月1日～3月10日）に試験操業を行っています。今年の調査によるしらす漁獲量は、大半の漁場で1網当たり1kg以下であり、前年同様低調な結果となりました。漁獲物の組成は、東部海域がウルメシラス主体、西部海域はカタクチシラス主体でした。

カタクチシラスのサイズは、湾内に残留していたと考えられる35mm以上の大型個体が多く、解禁後の漁獲対象となる中～小型の個体はあまり見られませんでした。これらのことから、解禁直後の3月中は低調な漁模様で推移するものと考えられます。

春シラス漁の主体となるカタクチシラスの来遊量は、湾外で早い時期から産卵を始める大型のカタクチイワシの資源状況に左右されると考えられています。常磐・房総海域の大中まき網による11～2月のカタクチイワシ漁は低調に推移していますが、大型成魚の資源状況を示す「カタクチイワシ大型成魚資源量指数」（茨城県水産試験場算出）は近年では比較的高い値を示しており、今年の春シラスは中漁程度の漁獲が期待されます。

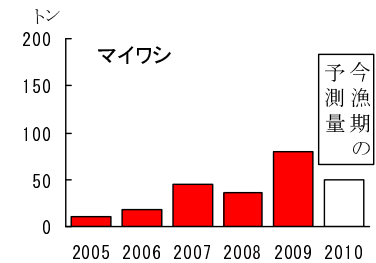
【まいわし】

今漁期は、2009年生まれの中羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、定置網を主体に約50トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

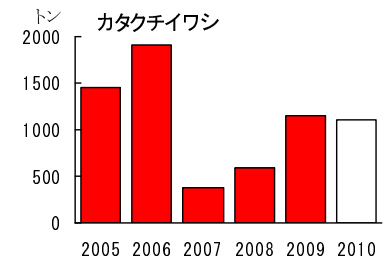


【かたくちいわし】

今漁期は、小型成魚（11cm以下）および大型成魚（12cm以上）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、定置網を主体に約1,100トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網



【しらす】

今漁期は、冬～春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

試験操業の結果から、本格的な漁が始まるのは4月以降になるでしょう。

今漁期の漁獲量は、カタクチイワシの大型成魚資源量指数から、約90トンと予測されます。

